

花王の紙オムツ、中国に買い占められる！

中国に転売すれば大儲け！ 花王の紙オムツ「メリーズ」
日本人の転売屋「一日の稼ぎは3万円を超えるときもある」

おひとり様2個までをお願いします(在庫切れ。次の入荷は未定です)

「モレない・ムシない」のキャッチコピーでお馴染みの花王の紙オムツ「メリーズ」が日本全国のスーパー、ドラッグストアでバカ売れ中だ。

特にM・Lサイズのテープ型が人気で、品不足が続いているため購入個数制限を設ける店が続出しているという。少子化に悩む日本でなぜ……? 実はその原因は、隣国・中国にあった。中国在住のジャーナリストが明かす。

「中国ではいま、年間1600万人の新生児が生まれる“ベビーブーム”が起こっているのですが、日本製の紙オムツが大人気なんです。

昨年末、中国製の紙オムツを使った乳児のお尻にデキモノができたというニュースが中国国内で話題になり、『やはり中国製は信用できない。日本製のオムツが欲しい!』との声が富裕層を中心に高まりました。中国の、特に沿岸部は蒸し暑いですから、通気性に優れていることをウリにしている『メリーズ』がウケているんです」

花王は中国国内にも営業拠点を持っており、メリーズを販売している。だが、中国人は国内で製造・販売されているメリーズは「日本製よりも劣る」と思い込んでいるんだとか。そこで、日本からメリーズが輸入されるわけだが、人気商品のため、販売価格は日本円にして3000円前後にまで高騰。日本では1200円前後で販売されているから、なんと2.5倍もの価格がついていることになる。

この価格差に目をつけて、日本で売られているメリーズを買い占め、中国に転売する“ブローカー”が多数出現しているというのだ。

「一日の稼ぎは3万円を超えるときもある。その気になれば月に100万円以上稼ぐことも可能ですよ」こう語るのは、今年6月からメリーズの“転売ビジネス”を始めたというA氏(日本人・50代)だ。

A氏は元々、自動車の廃部品などを集めて中国に転売する商売をやっていた。

「中国でメリーズが高値で売れる」との情報が飛び込んできたのは今年5月。「オムツを集めるだけで儲かるなら、こんなラクなことはない」と、インターネットで情報収集を始めたという。

すると、メリーズを「店頭販売価格よりも高く買う」という業者がネット上でいくつも見つかったのだ。「連絡先も書いてあったので、実際に連絡を取ってみました。中国人の業者だったんですが、紙オムツ一袋につき、1500円で買い取ってくれるというんです。



メリーズは1200円前後で買えるから、一袋につき約300円の利益になる。これは商売になるな、と踏んだワケです。その業者には『とにかく手に入るだけ欲しい。全部買い取るから』と懇願されました。

特にMサイズとLサイズのテープ型が人気だとかで、それを集めてほしいと頼まれましたね。彼らは俺たちが集めたメリーズをコンテナに詰めて、船で中国まで運んでさらに高値でさばく。俺たちは商品を集める“実働部隊”、というところですね」

“商売”のやり方は至ってシンプル。なるべく大きな車で都内のスーパー、ドラッグストアを回り、集められるだけの「メリーズ」を集め、仲介業者に指定された場所に持っていただくという。

「一人では作業が大変なため、2人一組でやっています。一日に回るのは40～50軒。ドラッグストアが閉まるまでは続けて、とにかく集めまくるんです。一日に集められるのは、約250袋といったところですから、儲けは7万5000円。ここから燃料費やら雑費やらをひいて仲間と2人で分ければ、いい時では日当3万5000円にもなる。毎日せっせと続ければ、月100万稼ぐこともできる、というわけです」

A氏は現在、6人・3チームで都内のメリーズを買い漁っているという。紙オムツで月収100万円。中国の「日本製品信仰」に乗っかり、右から左にモノを流すだけでこんなに稼げるのだから、確かにオイシイ商売だ。

A氏によれば、彼らのような転売集団は日本中のあちこちにいて、いたるところでメリーズの“買い占め”を行っており、それが品切れの原因となっているという。